

温故知新 昭和40年台に学ぶ【子供編】

携帯電話、インターネット、TVゲームもなかった時代、子供たちはどんな体験、どんな感情をもっていたのか

時代の出来事を教室で目撃



昭和47年 杉並児童交通公園開園

昭和47年、日本は色んな出来事がありました。まだ小学生2年だった私が、それらをよく覚えているのは当時の学校の先生のおかげです。

K先生は、戦時中の辛い食生活などもよくお話しされていました。塩鮭1切れで二日も三日もご飯を食べたとか。戦争体験のある担任から直接お話を聞けることなんて今ではあり得ないのだから貴重な時間だったのかもしれない。荻窪からバスに乗って下井草(だったか)の先生のお宅におじゃました時、サンドイッチのバイキングをしてくれたのですが、それがいつもの先生のイメージと違うことも印象的でした。

そんなK先生が札幌オリンピックや、浅間山荘事件が気になるらしく給食時間にテレビをつけて私達にも見せてくれました。区立小学校の教室には黒い鉄でできた蟹にも似た高い台の上に木製の観音開きの扉がついたテレビが鎮座していました。

記憶に残っているのは浅間山荘のボウリングシーン、そして日の丸飛行体のジャンプ競技。当時は「がんばれー！」などと騒ぎながら見ていたのですが、それが本当に大きな出来事だと理解したのはかなり大人になってから。何かハラハラドキドキをクラス中で体験共有できる、というのは楽しい時間でした。また社会に対する関心も高まり、以来ニュース番組をよく見るようになったのも、こんなことが原因かもしれない、って感じるようになりました。

投稿：小泉ステファニー

(昭和46年当時7才)

一掲載：2011年10月20日

作れるものは買わない 専業主婦は立派な仕事だ



昭和45年 下高井戸幼稚園開園(初の区立幼稚園)

昭和40年代は何しろ景気が良かったらしく、毎年夏は親しい親族と旅行によく出かけ出先でも高級旅館に泊まり馬に乗ったりモーターボートをチャーターしたり日本中を旅行したものだ。普段は質素だけど、高円寺の清水屋でどーんと着物を新調したり、当時人気の乗用車も度々乗り換えていたのだから生活のメリハリは相当で、経済活性も高かっただろう。

昭和45年頃私は区立高南中学校に通う中学生だったが、そんな一見派手な生活のうらで母が儉約に励む姿もよく見ていた。後から聞いたことだが、成績も良く経理もできる母が努めに出なかったのは、「外に出て働くことばかりが仕事じゃない、節約を徹底することでお金(父の給料)を残せるし、外で働いていたら給料もオシャレやおつきあいでなくなっちゃうじゃない」結果的に「微々たる収入のために育児の時間を失う必要もないし」という考えだったようだ。

何しろ外食はほぼ皆無、洋服や手袋も手製、クリーニングも頼まずワイシャツも全部アイロンをかける、風呂水は洗濯へ、さらに洗濯の排水はトイレ掃除へと。全自動洗濯機を買わずに二層式にこだわっていたのもそのためだったようだ。とにかく使えるものは使う、作れるものは作る母だった。そうまでして1年に一回派手な旅行に行ける余裕を生み出し

ていたのだ。

専業主婦は最近少ない。でも、子供の世話もできるので保育園に預ける費用もかからない。それにある程度の時間も持てる、経済的な収支差額を考えれば専業主婦は一種の職業なのかもしれない。母親人生をもう一度体験するのなら、今度は専業主婦もいいな、とこっそり来世を考えるとちょっと楽しい。

投稿：K(現在は西東京市在住)

昭和45年当時14才)

一掲載：2011年10月20日

旧校舎は、遊びがいっぱい



上(撮影昭和37年)下(撮影昭和41年)

昭和40年代、桃井第二小学校の校舎は、昭和初期に建てられた旧木造校舎から鉄筋の校舎に順次建て替えられた。

記憶によると、お手洗いは教室の脇の廊下から数段下りた渡り廊下の先にあった。当時はまだ水洗ではなく、床はコンクリートのようで冷たく昼間でも薄暗くて一人では怖かった。

私達の教室は立替前の旧校舎にあり、給食室からも遠く、あの脱脂粉乳の入ったミルク缶を運ぶのも大変で、新校舎の他のクラスが羨ましかったが味わい深いものがあつた。

教室の脇に図書室のような小部屋があり、

温故知新 昭和40年台に学ぶ【子供編】

教室を通して入るしかなくて、クラスの専用の部屋のような感じだった。ある時窓ガラスが壊れ隙間から冬には雪が入りこみ、本を読むより「冷凍室」と言って入って楽しんでた。

木の床も隙間だらけで、掃除の際には三角定規を使って溝に入った埃を掻きだすのが面白かった。離れのような感じだったので先生の目があまり届かず、階段の手摺を滑ったり何段も上から飛び降りたりして遊んでいた。

放課後、遅く迄遊んでいて用務員の方に怒られるのが怖くて、校舎の隅に隠れているのだが、それが見つかり、さんざん怒られた記憶がある。

運動会では毎回新しい地下足袋で走ったものだ。

現在の善福寺川緑地もまだ整備されておらず、子どもの背丈より高い雑草が生えていて隠れるのには最適な場所で、缶けりで鬼になると、なかなか見つからず大変だった。

投稿：S(昭和40年当時6才)
-掲載日・2011年10月13日-

自宅で行っていたお葬式



昭和46年頃の葬儀の様子

昭和39年生まれの私が小学校1年の時に、同居していた祖母が亡くなりましたが、その葬儀が、今とはまったく違うものなので、ぜ

ひ書いてみたいと思い応募しました。

まず葬儀は自宅で行います。玄関前には白い町会のテントが張られ、受け付けなどは町内会の方が仕切ってくれていました。地域の方らしいおじさんや親戚のおじさんが一緒に受付をしていたのをおぼえています。

また遺族の子供はじめ、参列者や近所の子供たちにも袋にはいった菓子が配られ、お通夜も飲みや歌えやと、賑やかでした。夕方たくさんのお金をもらって杉八小学校のそばにある文房具屋でトランプや花札を買いに行った記憶もあります。大人は子供が寝静まった後に祭壇の前でトランプや花札を楽しんでいたのですね。

火葬場は堀之内でしたが現在の建物とは違い、古い建物でした。お骨が焼き上がるまでは、少し離れた待合室でお茶を頂くのですが、この建物がまた何とも言えず古い造りでした。待合室でお茶をすすする退屈に負け、よくわからずに館内を巡っているうちに、まったく関係のない方のお骨拾いに参加してしまったという思い出したくない記憶も蘇ってきました。

とにかく稀薄な人付き合いの現在とは違い、昭和45年頃はまだまだこうした何かがあった時には、ご近所が助け合えるほどに、日頃のつきあいも盛んだったことがうかがえます。それなりの煩わしさもあったのでしょうけど、それはそれで必要なことだったのかもしれない、と少々なつかしくなりました。

投稿：高円寺のおばちゃん
(昭和46年当時7才)
-掲載日・2011年9月15日-

商店街のワクワク部屋 貸し本屋さん

昭和48年頃、松ノ木の商店街にはあらゆるお店が並んでいて、写真屋さんや二軒あったかな。スタジオで写真を撮ってもらったのを覚えています。そうそう、駄菓子屋さんもあったっけ。あの頃は子どもも多かったですからねえ。本屋さんもあったし。貸本屋さんもあったんですよ。小学生低学年だった頃は貸本屋さんがどういう店なのかよく知らなくて、

時々お店の前に少し並べてある新刊マンガ雑誌等を立ち読みしたりしていました。店のおじさんに見つかって怒られたりして。ふふふ。ある日、「あっ、このマンガ面白そう！買って読もう。」と思いながらパラパラと見ていると、おじさんが出てきて「こら、立ち読みするんじゃないぞ！」「あ、これ買います！」「おお、そうなの？中にもいろいろあるよ。」初めてお店の中に入ってびっくり！壁一面にビッシリと私の大好きなマンガ、マンガ、マンガ！里中満智子、山本鈴香、大和和紀、手塚治虫にそれからそれから…。番台のような所におじさんが座っていて、後ろには分厚い「貸し出し台帳」が並んでいました。もちろんパソコンなんてありませんから貸し出し記録はおじさんの几帳面な手書きです。

マンガだけではなく、江戸川乱歩やいろんな小説も次々と読破していきました。段々と大人の本も読むようになって。なにしろ大学生の頃までずっとあの店で本借りてましたからねえ。あの頃があったから今もずっと読書好きな私なんです。本の思い出と共にその時々いろんな出来事が蘇ってきます。

今、子どもの頃に読んでいたマンガや本を見つけると思わず大人買いしちゃったりしますが、やっぱりあの頃のワクワクしたときめきが良かったなあ。



松ノ木小学校に通っていた頃の夏休み

投稿：Y.F.
(昭和48～49年・当時10～11歳)
-掲載日・2011年9月15日-

DATA

取材：区民投稿
撮影：区民投稿
掲載日：2011年09月15日